

全 体 報 告 書

事業名称	「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化—
現状・課題	沖縄県教育委員会では『沖縄の行事食に関する総合調査報告書』（令和2年）として村落や家族・親族にまつわる行事全般の報告書を刊行した。しかし、年中行事等は多数ありかつ多種多様であることから、詳細調査は村落や行事対象が限定されているため、祖霊祭祀関連の行事食についてはさらなる詳細調査が必要である。伝統的な琉球料理を支える人材の高齢化や年中行事の簡略化等により行事食の衰退が進んでいる側面があり、若い世代を中心とした琉球料理離れが進み、伝統的な食文化が失われつつある。 「医食同源（薬食同源）」に起因した家庭料理（養生食）は、長寿県沖縄を支えた大きな要因の一つであったが、現在では長寿県の危機的な状況にある。厚生労働省「都道府県別の平均寿命」によると、沖縄県の平均寿命は男性、女性ともに全国1位の時期もあったが、徐々に下降し、2022年暮れの発表では、男性が全国43位、女性が16位となっている。かつて長寿県と言われていた沖縄県は、近年その地位は大きく揺らいでしまった。 沖縄県が実施した「県民の健康・栄養調査」（令和3年度）では20歳以上の肥満者の割合が全国平均を上回り、平均余命の調査結果では、沖縄県の場合は若い人が全体の平均寿命を下けているとの指摘もある。1日あたりの野菜摂取量は全国的に比べても低く野菜よりも肉類の料理が中心になる傾向がある。食卓から伝統料理が少なくなり、現代的な食生活へ変容していることが要因ともされている。 そのため、沖縄県では、21世紀ビジョン基本計画で「2040年には男女とも平均寿命日本一に復帰する」という目標を掲げ、沖縄県健康増進計画「健康おきなわ21」を策定し取り組むとともに、平成28（2016）年度からは、沖縄の伝統的な食文化普及推進計画を策定し、沖縄県食文化保存・普及・継承事業として、琉球料理传承人の育成を推進しているところである。 以上のことから、沖縄県民が琉球・沖縄の伝統的な食文化について関心を深め、その価値を再認識できる環境を整え、官民一体となって受け継いでいく気運の醸成が求められている。
事業目的	無形民俗文化財としての「琉球・沖縄の伝統的食文化」登録のため、その文化財的な価値を明らかにするため、前述の現状と課題をふまえつつ、下記のとおり調査研究事業と保存継承事業に取り組むことを目的としている。 本事業では調査研究事業の一環として一つの柱は、文献・史料調査に取り組み、琉球料理や「医食同源（薬食同源）」思想の系譜につながる歴史的史料や文献の調査と研究を行い整理することで、その流れを時系列的に総括する。 同じく調査研究事業のもう一つの柱として実態・実地調査に取り組む。「医食同源（薬食同源）」の養生食文化に関するアンケート調査を実施し、各地域での家庭料理（養生食）における食材のあり方や実態を把握し、今後の取り組みの基礎資料とする。また、年中行事が全般的に簡素化される傾向にあるなか、祖霊祭祀関連の行事食の伝統を実地調査ならびに聞き取り調査により、現状や実態を把握することは急務である。 発信等事業では「食文化ストーリー」のチラシ作成及びWEB発信に取り組む。

事業概要	(1) 調査研究事業 【文献・史料調査】 ①中国使節や薩摩在番奉行の接待・饗応料理としてのおもてなし料理（宮廷料理）について、これまでの研究成果を整理し総括する。日本の食文化との関わりについては研究実績が徐々に端緒がついたところであり、沖縄美ら島財団琉球食文化研究所においても一部取り組みはあるが、薩摩をはじめ日本の食文化の受容と展開については、未調査の史料等があることから、歴史学の研究者の協力も仰ぎつつ、史料調査と研究を行う。 ②「医食同源（薬食同源）」の思想については、『御膳本草』のテキストとしての研究はあるものの、当該テキスト成立以前の状況やその知識の民間への普及については十分に明らかにされていないため、史料調査と基礎研究を進める。 【アンケート調査及び実地調査】 ③「医食同源（薬食同源）」の養生食文化に関するアンケート調査 かつてよく食べられていた食材（野菜・島ヤサイ28品目、薬草等）が今は何がどのように食べられているのか、食べられなくなった食材は何故そうになったのか、市町村ごとにアンケート調査する。本調査を通して、これらの食材を残していくための方策検討の基礎資料とする。 ④祖霊祭祀の行事食に関する実地調査 沖縄県教育委員会『沖縄の行事食に関する総合調査報告書』（令和2年）の基礎調査一覧表をもとに、詳細調査が実施されていない地域について、沖縄本島北部・中部・南部、宮古・八重山地域からそれぞれ主要箇所をいくつかリストアップする。 それらの地域について、沖縄の代表的な祖霊祭祀である盆行事を中心に祭祀供物等のあり方に関して実地調査もしくは聞き取り調査を実施する。また、祖霊の墓前祭祀は、沖縄本島及び周辺離島では清明祭（シーミー）、宮古・八重山地域では十六日祭が盛んにおこなわれるが、十六日祭と清明祭は新暦4月頃、十六日祭は新暦2月頃が祭日となるため、実地調査は厳しいことから、既存の調査報告書等や聞き取り調査等で補足し、必要に応じて現地調査協力者に写真等を情報提供の依頼を検討する。こうした祭祀の実施時期の問題もあるため、調査成果の状況によっては2年度にまたがる継続した調査実施の必要性も高い。 【調査報告書の作成】 ⑤上記の調査研究をもとに調査報告書を制作するとともに、食文化の文化的価値をわかりやすく伝える「食文化ストーリー」のチラシを作成する。 (2) 発信等事業 ①「食文化ストーリー」のチラシ作成・WEB発信 食文化の文化的価値をわかりやすく伝える「食文化ストーリー」チラシを作成する。
事業全体の成果・効果	【仮案】 本事業の継続実施により「琉球・沖縄の伝統的な食文化—祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化—」について、昨年度の課題や調査研究を進めることができた。 さらに「島野菜・クスイムン・行事食の実態調査」アンケートを紙媒体とWEB版を制作・実施したことにより、昨年度の4倍の約250件の回答を得ることができた。昨年度のデータとの比較も出来、地域差の有無についても確認でき、沖縄県内の傾向が見えた。 昨年度の調査協力団体より、今年度もアンケート調査への協力を得、「食文化ストーリー」普及版（チラシ）や報告書が事業終了後も活用されていることを実感した。 「琉球・沖縄の伝統的な食文化」の価値をわかりやすく簡潔に伝える食文化ストーリーのチラシを作成して、今後の広報普及や情報発信（WEB発信）の手立てとすることができた。 交付申請書に記載した指標に対する達成度については以下のとおりである。 (1) 調査研究事業における目標・指標 ①調査研究事業による調査報告書の作成 ⇒250部作成した。 ②研究史の総括まとめ ⇒食文化に関する年表を作成し、巻末資料へ掲載した。 ③アンケート調査の集計結果 ⇒結果を踏まえ、各分野の委員による解説やデータをグラフ化し、巻末資料にまとめた。 ④祖霊祭祀の行事食の補足調査と実地調査のデータを統合した整理内容の一覧 ⇒補足調査を踏まえたレポートを掲載した。 (2) 発信等事業における目標・指標 ①「食文化ストーリー」の広報発信資料（A4サイズ両面1枚）作成・WEB発信 *食文化の文化的価値をわかりやすく伝える「食文化ストーリー」チラシを作成した。 ⇒今年度の各分野（島野菜・クスイムン・行事食）の調査研究成果を反映させた内容とした。 ⇒WEB発信は、昨年度同様、当財団HPへ掲載した。

事業別報告書

事業名称	「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化—
区分	(1) 調査研究事業
事業内容	(事業概要) 有識者会議の専門委員会（委員11名）を立ち上げ、調査研究事業の取り組み内容についての検討を行い、事業計画を策定した。調査研究事業では、(1)文献・史料調査、(2)アンケート調査、(3)行事食に関する実地調査（聞き取り調査含む）の3本柱で事業を推進し、最終的に調査報告書を作成することとした。
	(実施項目・詳細) (1) 文献・史料調査 ①中国の影響がみられる接待料理等に関するこれまでの研究成果を継続して整理し総括した。また、薩摩をはじめ日本の食文化の受容と展開にかかる未調査の史料等について昨年度行えなかった尚古集成館所蔵石原家文書を調査した。宮廷料理等に関するこれまでの研究成果を整理し総括するとともに琉球王国時代から戦後までの年表を作成した。 ②「医食同源（薬食同源）」に関する文献調査については、王国時代の『御膳本草』（1832年）に関する知識の普及過程は整理・総括はできたが、廃藩置県（1879年）以後における庶民への普及過程について調査した。 (2) 島野菜と行事食ならびに「医食同源（薬食同源）」の療養食文化に関するWEB調査 ①今年度は、10代から40代の若年層を含む全世代の実態調査を行った。 ②また、昨年度できなかった「医食同源（薬食同源）」の療養食文化に関するアンケート調査も島野菜と行事食の調査項目を絞り込み、島野菜と行事食、合わせて療養食文化に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査は、中高年向けのアンケート用紙（紙媒体）と若年層が回答し易いと思われるWEB版を作成した。 (3) 行事食に関する実地調査 今年度は前年度にアンケート調査等で収集した事例について、より詳細調査が必要な地区について、専門委員と調査協力員にて補足の聞き取り調査を行った。併せて選定した必要な箇所について参与観察調査を実施した。 これらによりアンケート調査の内容を深掘りするとともに、実地調査により実態を詳細に把握できる報告書を作成した。
成果・効果	アンケート調査では、10代から90代までの幅広い世代の島野菜やクスイムン、行事食についての傾向を知ることができた。特に、これまで把握していなかった海藻・藻類についての、認知度や利用度について知ることができ、今後の利用についての検討課題を認知することができた。 琉球王国時代から連なる沖縄の食文化についての年表を作成したことは、これまでの食文化に関する調査研究の集大成となる貴重な機会であった。文化庁及び当財団のHPに掲載し、普及することによって、今後の琉球・沖縄の食文化研究の深化が期待できる。

事業別報告書

事業名称	「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化—
区分	(3) 発信等事業
事業内容	(事業概要) 1. 取組項目：「食文化ストーリー」のチラシ作成及びWEB発信 2. 実施時期・期間：令和7年7月～令和8年3月 3. 事業の詳細： 食文化の文化的価値をわかりやすく伝える「食文化ストーリー」のチラシを作成した。沖縄美ら島財団のHPに掲載し、情報を発信した。
	(実施項目・詳細) 今年度の調査研究の結果を反映させた内容を掲載した「食文化ストーリー」のチラシを1,000部作成し、国立国会図書館はじめ、沖縄県内の公立図書館・大学図書館へ発送した。 「食文化ストーリー」チラシは、文化庁や当財団（一般財団法人沖縄美ら島財団）のHPに掲載した。
成果・効果	令和6年度「食文化ストーリー」調査報告書を図書館で見たという団体よりお電話があった。当該事業についてまた当財団の食文化に関する取り組みについての問合せがあり、今年度の調査報告書についても寄贈いただきたいとの連絡であった。今後も食文化に関する情報交換等していきたい旨、話があり、本事業をきっかけにして新たな関係構築が生まれている。